

## 令和元年度上期認定分 ましこ世間遺産一覧

No.	世間遺産の名称	申請団体	場所
43	<small>まつもとやたい</small> 松本屋台	松本自治会	大字山本
44	<small>かみやまごんげん</small> 上山権現まつり	上山自治会	大字上山
45	<small>ほしのみやじんじゃ</small> 星宮神社	星の宮自治会	大字塙
46	<small>やま かみ ほくら さいれい</small> 山の神の祠と祭礼	星の宮自治会	大字塙

## 認定No.43 松本屋台

申請団体 松本自治会

この屋台は江戸時代後期のものと考えられ、京都において制作し、船で品川、那珂川を經由して茂木で陸揚げされ、だいはちぐるま大八車で当地に運ばれたと伝えられる。京都八坂神社の祇園祭のものを形どったと伝えられ、町内に見られる彫刻屋台とは趣が異なり、また高さもあり京都の作風が感じられる。県内でも珍しい屋台の一つである。山本地区の祇園祭には原彫刻屋台とともに繰り出し、地域住民が一体となって伝統を受け継いでいる。



平成2年に町指定有形民俗文化財になっている。

## 認定No.44 上山ごんげん権現まつり

申請団体 上山自治会

明治の頃から続いている祭り。昔は夜祭りを2日間行っていたといわれているが、現在は11月の第3土曜日の夜に開催されていて、次の日は公民館を「お祭り広場」として子供みこし神輿とアクションなどを行っている。メインの夜祭りはごんげん権現地区にある



「権現様」と親しまれている社やしろから、若衆が神輿をかつぎ、各班ときよに渡御する。各班所にきたら、今まで肩にかついでいた神輿を腰のところまで下げて、上下に動かす。この「揉む」行為は、とても珍しい。また、御仮屋おかりやを設置している公民館の入口から30m程度の区間は、毎年子供達が描いた絵を行燈あんどんに貼った電球が灯りをともしている。この情景は非常に幻想的である。

## 認定No.45 ほしのみや 星宮神社

申請団体 星の宮自治会

ほしのみや 星宮神社は、おおさき 大前神社の記録によると鎮座はかるく 嘉禄元年（1225）であり、本殿は立派な造りになっている。主祭神はいわさくのかみ 磐裂神、ねさくのかみ 根裂神、ふつぬしのみこと 経津主命の三体の神様で、その他合社として、大杉神社、いなり 稲荷神社、あたご 愛宕神社、天満宮が本殿の右側に祀られている。星宮神社の例祭は11月13日に行っており、12日に前夜祭が行われる。



2025年に800年祭を迎える由緒ある神社である。

## 認定No.46 ほこら 山の神の祠と祭礼

申請団体 星の宮自治会

星の宮にある山の神の祠は、星の宮公民館の南東の小さな塚の上に建っている。ここで、毎年12月15日に「山の神」の祭りが行われてきた。100年近く続く伝統的な行事である。以前は、祭りの日は多くの子供や大人が集い、にぎわっていたが、時代とともに参加者が減り、今では当番とわずかな人数になってしまった。このような伝統的な祭りが継続できるよう将来にわたり、守り伝えていきたい。

